

| №  | 提 案 名                                | 提 案 団 体 名        |             |       |
|----|--------------------------------------|------------------|-------------|-------|
|    |                                      | 代表者氏名            | 所 属         |       |
| 12 | いつもここから音楽を、<br>—Linking Park（仮称）の設置— | 宇都宮大学 国際学部行政学研究室 |             |       |
|    |                                      | 川端 さやか           | 宇都宮大学 国際学部  |       |
|    |                                      |                  | 指導教官<br>氏 名 | 中村 祐司 |

## 1．問題意識

宇都宮市ではジャズを文化資源としたまちづくりを行なっているが、実際、市民や市外の人にとって宇都宮＝ジャズという認識ができる状態であるかという、そうは言えないだろう。その理由の一つとしては、2004(H16)年の宇都宮市観光動態調査による宇都宮ジャズの認知度の低さがある。その調査結果によると、宇都宮が餃子のまちであると答えたのは調査対象の90%であったのに対して、ジャズのまちと答えた人はたったの6%である。

渡辺貞夫クラブ、宇都宮観光コンベンション協会、ジャズ協会からなるジャズのまち委員会が先導となって街角ライブやジャズセミナー、展示会を行なっているが、一向にジャズが浸透してきている感じは受けない。調査結果からもそのことは明らかである。市外の人たちに宇都宮のイメージとして定着している餃子においては、宇都宮市民自身においても宇都宮＝餃子という認識があると言えるだろう。それに対し、市外のほとんどの人に伝わっていない宇都宮ジャズは宇都宮市民においても同様に、宇都宮＝ジャズという認識はできていないに等しいと考える。

このことに対する問題点として、ジャズのまちと謳えるほどジャズへ触れる機会や場所が多くはないこと、ジャズのイベントなどの情報の発信がスムーズに行なわれていないこと、市民からの自発的な活動への参加がみられないことなどを挙げたい。これらのことをすべて解消できれば、少なくとも今以上にジャズのまち宇都宮ということを目内外ともに認識できるようになると考えられる。その中でも今回私たちは、ジャズへ触れる機会や場所が少ないことを一番の問題として取り上げ、よりよいジャズによるまちづくりを進めるために、提案していきたいと思う。

また、私たちがジャズとしてとらえる音楽とは、宇都宮市のジャズの定義にのっとったもの、つまり、クラシック以外の音楽すべてであることを前提とする。

## 2．提案：Linking Park(仮称) の設置

私たちは駅東口に整備される予定の交流広場に、以下の条件を備えた演奏スペースを設けることを提案する。

誰もが無料で、気軽に使える

時間を問わずいつでも音楽が流れている

駅を利用する人がふらっと聴きに寄れる

### 具体的な理想イメージ

- ・演奏スペースにプラスして、レストラン・カフェスペースも併設する
- ・昼と夜での演奏スペースの雰囲気を変える
- ・この広場のプロデューサーを設ける